

就活生のサポートに全力

この時期に活動中の就活生は内定のありなしが人生の分かれ目のような気持ちでいるでしょう。内定先がまだ決まらない方は「何時までこんなことを続けなければならぬのか」と不安があって当たり前だと思



ます。そんな悩み多き皆さんに伝えたいことがあります。それは「就職活動は早いもの勝ちではない」ということです。

就活 早いもの勝ちではない

それでは、本当の就活での「勝利」とはなんですか。それはあなたの能力を十分、発揮できて「長くここで働きたい」と思える会社に就職することです。

それは第一志望の会社かもしれないし、そうでないかもしれません。とてもとても入りたかった会社をめたく入社できても、わずか3カ月で辞めたり、それ以上のことになってしまったりしてしまう方もいます。

まだ内定先がない皆さん、どうか焦らず淡々と就活を続けてください。そして本当の「勝ち」を手にしてください。大阪新卒応援HWは皆さんを精一杯、お手伝いします=写真は相談窓口を訪れる就活生。

HWはモチベーションを保つオアシス

「1次面接すら通らない。いったいどうすればいいのか」。不採用の文字を見るたび気持ちが沈んだ。そんな時、友人に紹介されたのが大阪新卒応援HWだった。ジョブサポーター（JS）の個別支援を受けながら添削や面接練習に一から取り

同志社女子大生

組んだ。「HWは私にとっ て就活のモチベーションを保つオアシスのような存在だった」。どん底から意中の企業の内定を掴んだ同志社女子大生II写真IIの就活日記、第45弾。就活は今年2月から始



めた。インターンも2社に参加しただけ。周囲よりも遅れていた。仕事の軸は暮らしや働

就活日記

く空間を快適にして、そこで生活したり働いたりする人をサポートすることである。これはオフイスの課題を解決する商社の説明会に参加し、実感できた。

4月は連日、会社説明会と面接が続く。志望動機や自己PRは文言を一

字一句、丸暗記して乗り越えようとした。だが言葉遣いも硬く、想定外の質問に対応できなかつた。不採用が続く現実にも心も萎えた。「いったい、どんな準備をすればいいのか」。自己流に限界を感じていた。

そんな時、友人に当所を紹介される。「JSは私を否定せず、全てを受け入れてくれた。ここなら就活を続けられる」役立ったのは面接練習だ。例えば志望動機であ

「面接だからといって構える必要はない。大切なのは面接官と会話することだと気づいた」本命企業は事務サポート職である。面接では自身の性格について深掘りされた。「今までの経験で3歩先を考え行動したことは」との問いには高校時代のサッカー部マネジャーの経験を話した。「夏場は熱中症や捻挫などケガが多い。そこで夏前の6月に応急救護のセミナーに参加し処置を学んで備えた」。誰かを

学ハロ大阪新聞

発行所
厚生労働省 大阪労働局
大阪新卒応援ハローワーク
〒530-0017
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル118階
TEL 06-7709-9455
FAX 06-7709-9458
https://jsite.rhlw.go.jp/osaka-young/

第60号

2023年8月1日



ホームページ
記事掲載のイベント
情報はこちら



施設紹介(動画)



LINE公式
アカウント



- 2 マッチング会、盛況
- 3 インターンシップとは

学ハロ大阪新聞は第60号で終了します。ご愛読、ありがとうございます。ごさいました。

コロナ禍でイベントは？
最新情報 HPで確認を

支える仕事の重責と喜びを知った。

「自分を動物に例える」との問いには「ヌーの一番後ろ」と答えた。ヌーは集団で互いに協力しながら動く。先頭はリーダー役で集団を牽引。一方、最後尾のヌーは遅れがちな仲間を後方から支える存在である。そこに自らを重ね事務サポート職の適性をアピールした。

「祝内定 おめでとうございいます」の垂れ幕とクラッカーが弾けた。

振り返れば、不採用通知に何度も心が折れそうになった。そんな気持ちの浮き沈みが激しかった時、寄り添ってくれたのが祖父母だった。

「就活は周囲に支えられた。今度は私が仕事で誰かを支えたい」

阪南大

就職ガイダンスで意欲高める

追手門学院大

阪南大経済学部、高橋慎二教授ゼミの2回生30人が6月27日大阪新卒応援HWを訪れ、当所の活性化策を検討するための訪問調査を実施した。

この日はHW職員からガイダンスを受け、施設内を見て回った。その後、グループに分かれ「当所の特徴的（売りになる）と思ったところ」と「大学2回生の立場から、あれば有益と感じるサービスや施設」の2テーマについてディスカッションした。

特徴的で売りになることについては「他大学の就活生と交流できる」「企業説明会が毎日、開かれている」など大学のキャリアセンターでは実施できない点が多く挙げられた。

当所の活性化策検討へ訪問調査 高橋ゼミ生

もしあれば有益と感じるサービスや施設では、「場所が分かりにくいいため、案内板を設置してはどうか」という意見が多くあった。そのほか「1、2回生向けの専用窓口を設置する」「ジョブサポーターに直接、連絡ができる」という意見もあった。SNSの活用に関しては「積極的に発信するべきだ」との意見がある一方、「SNSは埋もれてしまうため、大学内にポスターを掲示するなどアナログによる周知の方がむしろ目に留まるのではないか」という両極の意見も出た。

清水所長は「様々な意見が出て、参考になった。実際にニーズがあるのかどうかを踏まえ、ゼミ内で検討した上で実施に向けて提案をいただきたい」と講評した。

追手門学院大生を対象にしたマッチング会の事務職編が6月20日、大阪新卒応援HWで開かれ、13人が参加し、就職活動への意識を高めた＝写真。

この日は当所のジョブサポーター（JS）が就職ガイダンスを実施した。求職登録の後、セ



マッチング会4年目。延べ225人参加

ミナーなどの支援メニューから応募企業への紹介状発行まで就職活動の流れを詳しく説明した。参加した学生はメモを取るなど熱心に聞き入っていた。追手門学院大を対象にしたマッチング会は2020年から始まり、今年4年目を迎える。これまで計31回開かれ、延べ255人が参加した。

また27日には阪南大経済学部、高橋慎二教授ゼミの2回生30人が当所職員から具体的な支援メニューについて説明を受けた。

大阪新卒応援HWでは、全学年を対象にした就職ガイダンスを実施している。職業相談から添削、面接練習まで一連の流れを説明し就活生を支援する。当所の登録会などに関心を持たれた各学校のキャリアセンター職員や関係者の方は電話06（7709）9455の当所学校チームへ。

将来の就職へ「業界研究」は不可欠

将来の就職に向けて「業界研究」は欠かせない要素の一つです。

業界研究は情報収集から始まります。希望する業界や職種をリストアップして、それに関する情報を集めることが重要です。インターネットをはじめ、業界紙などを活用して企業の情報や業界のトレンド、将来性などを調べてみましょう。

また、業界研究では実際に企業に足を運んで情報収集することも大切です。自分の興味や関心のある企業はもとより、その他の企業に話を聞くことで新たな興味や選択肢が発見できることもあります。企業を訪問する機会があれば、積極的に参加しましょう。そこで働く社員の方のお話を聞くことができれば、もっと参考になるでしょう。

大阪新卒応援ハローワークでは、2023（令和5）年9月5日（火）に「業界研究バスツアー」～バスに乗っ

て見学に行こう！～と銘打って、ダイキン工業株式会社堺製作所の臨海工場の見学及び若手職員の方にもお話をいただく予定のイベントを開催いたします。全学年が対象となっていますので、興味のある方は是非この機会に一步を踏み出してみませんか。

様々な業界研究を行うことで、自分にあった企業・職種を選ぶための材料となり、なぜこの業界を選んだのかをきちんと説明するために必要な情報を収集することができます。はじめは不安や迷いもあると思いますが、就活成功への第一歩です。

最後に「学ハロ大阪新聞」の発行は今号で最後となりますが、大阪新卒応援ハローワークは引き続き、いつでも皆さんの就活のお手伝いをしています。ぜひ活用していただき「就職」をつかんでください。応援しています。

（大阪新卒応援ハローワーク所長）

94% 「参加して良かった」

6月合同説明会、参加者アンケート結果



大阪新卒応援H Wは6月1日から4日間、合同企業説明会「職業紹介スタート」編を開き、235人の就活生が参加した。写真①。その際、実施したアンケート調査の結果がまとまった。それによると、回答した233人のうち94%に当たる219人が「参加して良かった」と回答した。

参加のきっかけは185人が大阪新卒応援H Wでの勧誘やチラシと答えた。中には1日夕のニュース番組で説明会を知り、参加した就活生もいた。

具体的な感想（複数回答）では「知らない業界の仕事が理解できた」「会社の内容が良く理解できた」が21人とトップ。「HPではわからない企業の雰囲気がよくわかった」が17人、「質問しやすい環境だった」が13人、「不明な点を直接聞くことができ応募に踏み切れた」が8人いた。

就活の悩みでは1位が「面接対策」で全体の4割を占めた。2位は「業界・企業研究、選定」、3位は「応募書類」となった。就職先を決める際に重視していることについては1位が「仕事内容」と7割を占め、2位は「休暇・休日」、3位は「福利厚生」だった。

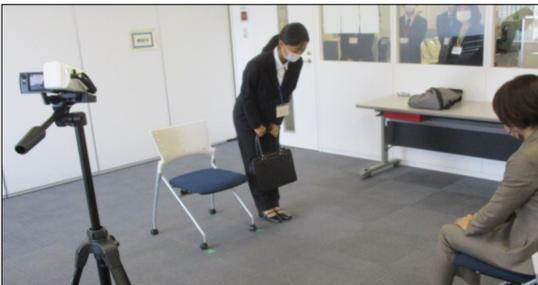
感想は次の通り。カッコ内の数字は回答した人数。

「知らない業界、会社の内容理解できた」「面接対策」4割が悩み

▼知らない業界の仕事内容がわかり勉強になった(21) ▼会社(企業)の内容がよく理解できた(21)

▼企業の情報を思った以上に知ることができた(15) ▼求人票やHPではわからない企業の雰囲気がよくわかった(17) ▼質問しやすい環境だった(13) ▼いろいろな企業の説明が聞いて良かった(12)

▼不明点を直接聞くことができ、選考へ踏み切れた(8) ▼業界に対する視野が広がった(8)



インターンシップのメリットは

2025年3月卒業予定の就活生から相談を受ける機会が少しずつ増えてきました。特にインターンシップの選び方について質問を受けることがあります。そこで今回はインターンシップとは何か、どう攻略するかについてご紹介します。

インターンシップとは在学中に企業などで一定期間、就労を体験することです。インターンシップに参加するメリットは実際に仕事をしている人達から話を聞いたり、業務を体験したりすることを通じて①業界や職種研究ができること②働く姿がイメージでき、入社後のミスマッチが防げること③インターンシップの経験を志望動機に生かせることなどが挙げられます。

特に就活生向けには夏休みや冬休みなどの長期休みの期間にオープン・カンパニータイプの1 day完結型や2、3日程度の短期間のもが多く実施されています。

実施内容も業務の疑似体験から事業立案や課題解決をグループワーク形式で行うもの、企業の社員との交流を目的としたものなど様々です。

業界も職種もまだ迷っているという方こそ、まずは短期間のプログラムに複数参加し、ご自身の興味や適性を見極めてみてはいかがでしょうか。インターンシップのエントリー対策を当所で実施していますのでぜひ、ご相談ください。

来月から「印象アップ講座」

9月から新セミナー「印象UP講座」が始まります。この講座では、就活生が苦手とする電話応対と質問が多い入退室の練習を行います。写真は昨年の講座風景。

第1部は電話応対のポイントを説明した後、2人1組となり「企業からの連絡」を想定し実践します。第2部は第一印象がポイントである入退室の練習です。立ち方から会釈、敬礼まで立ち居振る舞いをビデオ撮影し、参加者と動画をチェックします。

就活生の皆さん、電話でのスムーズな応答、キレイのある入退室をセミナーで習得しませんか。参加をお待ちしています。

大阪新卒応援ハローワーク（HW）で連日、D a i l y企業説明会が開かれている。履歴書不要、予約いらずで参加者からは「採用担当者と直接、話ができ、社風の一部が分かる」と好評だ。そこで本稿ではJ Sが就活生にお勧めする参加企業を訪れ、採用担当者に事業内容や求める人物像に迫った。ぜひ参考にして欲しい。

「志」掲げ、社員が「夢」と「希望」を持てる企業へ

フェザー安全剃刀株式会社

フェザー安全剃刀は1932（昭和7）年の創業以来、精密刃物メーカーとして国内をはじめ世界100カ国超のユーザーに満足度の高い製品を届けてきた。そのラインナップはシェービング製品やツメキリなどのグルーミング製品、理美容製品、メディカル製品、産業用製品まで幅広い。同社は創業100周年に向け「世界品質のフェザー」の名に相応しい新たな価値の創造に挑み続けている＝写真はヘアカットモンスター ブラシ

⑤①や医療用メス⑥⑦、前髪セルフカッター⑧などの製品。

◆刃物の伝統が息づく関の地で◆

フェザー安全剃刀の工場は岐阜県関市と美濃市にある。関市は刃物の町で、その歴史は鎌倉時代の刀匠まで遡る。刃物の伝統が受け継がれてきた関市で日本企業として初めて安全剃刀の量産を始めた。工場には昭和天皇・香淳皇后ご夫妻が訪れ、製造現場をご視察された。1964（昭和39）年の東京五輪に協賛し、1970（昭和45）年の大阪万博に出展したのを機に日本を代表する精密刃物メーカーとして発展してきた。

◆誰もが知っているようだけど◆

「ただ、若い方の認知度は案外、低いのです」と同社の人事担当者。「一般消費者向けシェービング製品については40代以上の方はご存知でも、他社と競合する中、店頭での露出が減ってきたことが原因」と分析する。一方で、1960年台に進出したメディカル製品、理美容製品は医師や理容師、美容師といったプロの圧倒的な支持を受け、米国やヨーロッパ、アジアなど世界中で販売され、同社は「世界の医療や美を支える企業」へと発展を続ける。

◆創業から培った信頼の商品力◆

仕事での誇りは自社製品の品質に絶対の自信を持っていることである。自社工場で働く社員はほぼ正社員だ。品質と教育を重視した同社のこだわりである。ここに人材は財産であるという社の精神が息づいている。コロナ



世界の医療に貢献

禍前には年に一度、工場グラウンドに全拠点の社員が集い、運動会を開くなどチーム力を高めている。

◆採用は多様性と長所を重視◆

同社でも昨今、戦力強化のため中途採用が増えつつある。新人教育では「物を作って物を売る」との視点から、工場でどのように作られ、ユーザーがどのように使っているのかを深く理解することが肝要であると採用担当者。好奇心旺盛でコツコツ真面目に行動する人、素直な人が好まれるというが、「様々な個性があって良いし、短所があってもそれを上回る光る部分を持っていることが大切である」と話す。

◆働きやすくメリハリのある職場を目指す◆

働く上でダラダラは禁物。その日のうちにやらなければいけない業務以外は残業は認めない。育児休業からの復職率は100%だが、男性社員の取得はまだまだ少ない。女性社員の活躍推進も今後の課題である。

◆新たな価値を創造する◆

2000（平成12）年に「カミソリ文化伝承館フェザーミュージアム」が開設され、2016（平成28）年には「刃物総合博物館フェザーミュージアム」としてリニューアルオープンした。一方、総合研究所は世界が求める高品質製品を開発するメーカーの知能と心臓部を担っており、刃物の基礎研究から新製品の開発に取り組んでいる。ここでは、営業やマーケティングと連携して最新の市場動向やニーズをキャッチするとともに情報の分析や検証を行い、商品開発に生かす情報基地の役割を果たす。そこから生まれた高品質製品が人々の健康や快適な暮らしをサポートしている。

◆「志」「夢」「品格」ある企業へ◆

同社は志（こころざし）を経営方針に据え、社員が「夢」と「希望」を持てる企業づくりを目指している。公正と信頼を両軸に社会貢献にも力を注ぎ、日本を元気にする企業として発展していくことが目標だ。そのためには自分を変える、仲間を変える、会社を変える社員であってほしい。

社名のフェザーには「羽根のように柔らかなタッチ」という意味が込められている。社員と経営陣、営業と生産、研究が互いの顔を見て意見を交わし、目標に向かって進む。

これがフェザーである。